

夏目漱石の語彙研究

— 書簡の漢語に着目して —

小林 実央子

はじめに

夏目漱石の書簡（明治三〇年代^{注1}）の漢語に着目し、友人の正岡子規、妻の夏目鏡子、門下生の鈴木三重吉、森田草平宛ての相違を分析し、受信者毎に如何なる漢語使用を行ったかを記述する。

分析資料は『漱石全集』第二巻^{注2}である。本巻は明治二二年から明治三九年までの漱石の書簡が収められ、文体差による漢語使用差がどのように表れるのかを分析する。

漢語、漢語＋ひらがなで構成される語を採録する。

漢語 例「安全」、「意見」など

漢語＋ひらがな 例「恐縮（する）」、「実（に）」など

重箱読みの語、湯桶読みの語、固有名詞、日付、数詞、書簡文中の漢詩や俳句に使用されている漢語は採録対象としない。

漢語の認定には『新潮国語辞典 第二版』^{注3}を参考とした。

文体は、候文、文語文、口語文の三種類に分類して調査を行う。

候文

愈窮陰の時節と相成候御病体 近日の模様如何に候や不相変筆
硯 御繁昌の様子故まづ御快氣の方と遥察致候小生 碌々矢張
因例如例に御座候・・・（正岡子規宛て 書簡番号一三七）

文語文

・・・翻訳官^{のけ}はといふと果たしてやつて除くという程の自信と
勇氣無之第一 法律上の言語も知らぬ我々が外務の翻訳官と突
然 変化した処で英文の電報一つ満足には書けまいと思うな
り・・・（正岡子規宛て 書簡番号二一九）

口語文

国を出てから半年許りになる少々厭気になつて帰り度なつた御
前の手紙は二本来た許りだ其後の消息は分らない多分 無事だ
らうと思つて居る御前でも子供でも死んだら電報位は来るだら

うと思つて居る・・・(夏目鏡子宛て 書簡番号二一八)

漢語使用の特徴を掴むために、漢語を『分類語彙表―増補改訂版―』^{注4}に従つて意味分類を行う。なお、採録漢語のうち『分類語彙表』に記載されていた漢語のみを分析対象とした。

『分類語彙表』では、語を四類(体・用・相・その他)に分け、更に体・用・相の各類を大きな意味的まとまりとして分けている。本稿では、便宜上それぞれの項目にアルファベットを付した。

別に語構成という観点からも調査し、漢語の字数による分類も行う。採録した全ての漢語を分析対象とする。分類の方法を示す。

(例) 一字漢語 書、実(は)

二字漢語 衣食、学校

三字漢語 理想的、御依頼

四字漢語 一筆啓上、内閣成立

五字漢語 腰部切開後

六字漢語 退職陸軍大佐

漢語の下に、延べ語数を示す。なお、用例数が多い項目に関しては、紙幅の都合上、記載を省略した。

文体差による漢語

I 「分類語彙表―増補改訂版―」を用いた分類
1、正岡子規宛て書簡の漢語について

(1) 候文の漢語

正岡子規宛て書簡(候文)から採録した漢語で、『分類語彙表―増補改訂版―』に記載されていたのは、延べ語数では354語中312語、異なり語数では265語中227語であった。

体の類

【抽象的関係】延べ71語23% 異なり49語22%

以上5、方4、様4、場合3、目下3、過日2、価値2、新年

2、先日2、大概2、当地2、到着2、様子2

【人間活動の主体】延べ39語13% 異なり22語10%

小生10、教師5、学校2、校長2、車夫2、主人2

【人間活動―精神・行為―】延べ108語35% 異なり91語40%

句4、俳句4、希望3、御覧3、外務2、御笑覧2、御伝声

2、御免2、自信2、書籍2、郵便2

【生産物・用具】延べ5語2% 異なり5語2%

軸、拙宅、短冊、筆硯、門

【自然物・自然現象】延べ9語3% 異なり8語4%

病氣2、海陸、御快氣、御持病、御病氣、御病体、暑氣、生長の類

【抽象的關係】延べ3語1% 異なり3語0%

換言、生、対

【人間活動―精神・行為】延べ26語8% 異なり12語5%

存13、供2、変化2

【自然物・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

相の類

【抽象的關係】延べ31語10% 異なり21語9%

実3、少々3、到底3、随分2、多少2、単2、頓2

【人間活動―精神・行為】延べ9語3% 異なり5語2%

詳細2、呵々、自由、徒然、判然

【自然・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

その他の類 延べ11語4% 異なり11語5%

一筆啓上、几下、是非、草々、勿々、多分、兎角、頓首、拝

啓、不一、勿論

(2) 文語文の漢語

文語文で書かれた漢語は、延べ語数では137語中115語、異なり語数では120語中100語であった。

体の類

【抽象的關係】延べ35語30% 異なり32語32%

以上2、当地2、目下2

【人間活動の主体】延べ21語18% 異なり15語15%

小生5、教師2、父母2

【人間活動―精神・行為】延べ20語17% 異なり19語19%

糊口2

【生産物・用具】延べ4語3% 異なり4語4%

時針、書斎、別紙、薬缶

【自然物・自然現象】延べ4語3% 異なり4語4%

薰風、残暑、濃霧、病魔

用の類

【抽象的關係】延べ7語6% 異なり5語5%

一転2、刻2、帰京、退化、転

【人間活動―精神・行為】延べ11語10% 異なり10語10%

自覚2、困却、採用、辞、従事、熟視、昇進、心配、倍、報

【自然物・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

相の類

【抽象的關係】延べ8語7% 異なり7語7%

少々2、相当、遂、当分、不足、無限、碌々

【人間活動―精神・行為】延べ3語3% 異なり3語3%

輕快、懇々、昏々

【自然・自然現象】延べ0語 異なり0語

その他の類 延べ2語2% 異なり1語1%

是非2

(3) 口語文に使用されている漢語

口語文で書かれた漢語は、延べ語数では119語中108語、異なり語数では90語中79語であった。

体の類

【抽象的關係】延べ20語19% 異なり15語19%

様4、時間3

【人間活動の主体】延べ31語29% 異なり17語22%

地獄6、僕5、先生3、西洋2、人間2、無神論者2

【人間活動―精神・行為】延べ27語25% 異なり19語24%

勝負3、演説2、義務2、御免2、新聞2、通信2、拝見2

【生産物・用具】延べ1語1% 異なり1語1%

土俵

【自然物・自然現象】延べ3語3% 異なり2語3%

病氣2、無音

用の類

【抽象的關係】延べ2語2% 異なり2語3%

閑、充滿

【人間活動―精神・行為】延べ12語11% 異なり12語15%

我慢、勘定、恐縮、称、信、奮発、弁、報道、面会、用心、予想、利用

【自然物・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

相の類

【抽象的關係】延べ8語7% 異なり7語9%

大変2、早速、実、少々、精々、単、頓

【人間活動―精神・行為】延べ4語4% 異なり4語5%

肝心、遂々、有名、理想

【自然・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

その他の類 延べ0語0% 異なり0語0%

2、夏目鏡子宛て書簡の漢語について

(1) 候文に使用されている漢語

候文で書かれた漢語は、延べ語数では1058語中924語、異なり語数では608語中513語であった。

体の類

【抽象的關係】延べ243語26% 異なり131語25%

当地22、様22、到着10、帰朝5、上陸5、今度4、時間4、次

第4、上等4、都合4、別段4、方4、以上3、以来3、御無事3、混雑3、困難3、昨夜3、転居3、普通3、以下2、以後2、海中2、帰宅2、金力2、件2、候2、時分2、出帆2、新年2、様子2、晩2、半分2、美2、目下2、日中2

【人間活動の主体】延べ122語13% 異なり53語10%

小生20、日本人14、小児7、公使館5、西洋人5、先生4、植物園3、成人3、世界3、人間3、家族2、寺院2、自分2、主人2、商人2、女学校2、書生2、船客2、旅館2、博物館2、夫婦2、男子2

【人間活動―精神・行為】延べ217語23% 異なり142語28%

下宿9、書状7、日記6、勉強6、承知5、写真4、服装4、見当3、見物3、御注意3、御養育3、止宿3、書信3、書面3、博覧会3、閉口3、落手3、安堵2、一見2、運動2、擱筆2、気分2、御看病2、御心配2、御通学2、御伝言2、散步2、食事2、書物2、神経衰弱2、贅沢2、世話2、洗髪2、著書2、仏画2、得意2、途方2、珍重2

【生産物・用具】延べ57語6% 異なり38語7%

馬車6、汽車5、燕尾服4、鉄道4、外套3、洋服2、電気2

【自然物・自然現象】延べ60語6% 異なり40語8%
病氣7、氣候5、身体4、無地2、寒氣2、御安産2、御全快

2、御病氣2、紫檀2、出産2

用の類

【抽象的關係】延べ8語1% 異なり7語1%

出發2、延期、合併、劇変、通、破裂、変化

【人間活動―精神・行為】延べ60語6% 異なり24語5%

存29、拝見3、案2、見物2、散歩2、楽2、勉強2、閉口2

【自然物・自然現象】延べ2語0% 異なり2語0%

映、繁茂

相の類

【抽象的關係】延べ96語10% 異なり44語9%

結構8、非常8、無事7、少々6、随分6、到底5、至極4、昨3、実3、妙3、立派3、安直2、一向2、加減2、大抵2、大分2、当分2、厄介2

【人間活動―精神・行為】延べ39語4% 異なり27語5%

親切4、繁華3、御安心2、上品2、贅沢2、大事2、貧乏2、愉快2

【自然・自然現象】延べ14語2% 異なり3語1%

丈夫11、壮健2、御丈夫

その他の類 延べ7語1% 異なり3語1%

拝啓4、無論2、多分

(2) 文語文に使用されている漢語

文語文で書かれた漢語は、延べ語数では94語中82語、異なり語数では80語中67語であった。

体の類

【抽象的關係】延べ22語27% 異なり15語22%

様5、到着3、様子2

【人間活動の主体】延べ10語12% 異なり9語13%

余2、小児、成人、西洋人、世界、先達、人間、洋行、留学生

【人間活動―精神・行為】延べ25語30% 異なり21語31%

音信3、注意2、写真2

【生産物・用具】延べ0語0% 異なり0語0%

【自然物・自然現象】延べ5語6% 異なり5語7%

身体、伝染病、病氣、病身、冷氣

用の類

【抽象的關係】延べ4語5% 異なり4語6%

関、出発、通、封

【人間活動―精神・行為】延べ1語1% 異なり1語1%

心配

【自然物・自然現象】延べ0語0% 異なり0語0%

相の類

【抽象的關係】延べ10語12% 異なり8語12%

相応2、少々2、危険、決、専一、特別、非常、妙

【人間活動―精神・行為】延べ4語5% 異なり3語4%

必要2、安心、愉快

【自然物・自然現象】延べ1語1% 異なり1語1%

丈夫

その他の類 延べ0語0% 異なり0語0%

(3) 口語文に使用されている漢語

口語文で書かれた漢語は、延べ語数では406語中344語、異なり語数では271語中224語であった。

体の類

【抽象的關係】延べ63語19% 異なり43語20%

様14、舞台4、当地3、市中2、時機2

【人間活動の主体】延べ63語18% 異なり33語15%

自分6、先達6、人間5、博士4、自身3、世間3、古人2、

地獄2、淑女2、書生2、世帯2、大丈夫2、夫婦2、婦人

2、洋行2

【人間活動―精神・行為】延べ93語27% 異なり66語29%

下宿5、郵便4、写真3、書面3、書物3、著書3、便3、落

第3、覚悟2、狂言2、御覽2、修業2、承知2、掃除2、閉

口 2、理想 2

【生産物・用具】延べ17語 5% 異なり12語 5%

電気 3、道具 2、材料 2、衣服 2

【自然物・自然現象】延べ12語 3% 異なり10語 4%

病氣 3

用の類

【抽象的関係】延べ3語 1% 異なり3語 1%

合併、変化、有

【人間活動―精神・行為】延べ16語 5% 異なり12語 5%

心配 5

【自然物・自然現象】延べ1語 0% 異なり1語 0%

本復

相の類

【抽象的関係】延べ45語 13% 異なり22語 10%

実 7、一向 5、少々 4、大変 4、決 2、結構 2、大分 2、到底

2、突然 2、非常 2、立派 2

【人間活動―精神・行為】延べ23語 7% 異なり18語 8%

強情 3、気楽 2、陰気 2、安心 2

【自然・自然現象】延べ3語 1% 異なり1語 0%

丈夫 3

その他の類 延べ4語 1% 異なり2語 1%

大体 2、多分 2

3、鈴木三重吉宛て書簡の漢語

(1) 候文に使用されている漢語

候文で書かれた漢語は、延べ語数では28語中25語、異なり語数では23語中20語であった。

体の類

【抽象的関係】延べ3語 12% 異なり3語 15%

現下、時間、趣向

【人間活動の主体】延べ0語 0% 異なり0語 0%

【人間活動―精神・行為】延べ6語 24% 異なり6語 30%

御教示、御参考、誤植、御親切、御報知、御覧

【生産物・用具】延べ1語 4% 異なり1語 5%

別紙

【自然物・自然現象】延べ4語 16% 異なり2語 10%

神経衰弱 3、全快

用の類

【抽象的関係】延べ0語 異なり0語

【人間活動―精神・行為】延べ4語 16% 異なり2語 10%

存 3、満足

【自然物・自然現象】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

相の類

【抽象的関係】延べ 1 語 4 % 異なり 1 語 5 %

結構

【人間活動―精神・行為】延べ 3 語 12 % 異なり 3 語 15 %

軽薄、無教育、魯鈍

【自然物・自然現象】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

その他の類 延べ 3 語 12 % 異なり 2 語 10 %

拝啓 2、草々

(2) 文語文に使用されている漢語

文語文で書かれた漢語は、延べ語数では 71 語中 60 語、異なり語数では 54 語中 45 語であった。

体の類

【抽象的関係】延べ 16 語 27 % 異なり 12 語 27 %

以上 3、趣向 2、調子 2

【人間活動の主体】延べ 9 語 15 % 異なり 7 語 16 %

僕 3、主人公、小生、小説家、先生、男女、読者

【人間活動―精神・行為】延べ 22 語 37 % 異なり 18 語 40 %

会話 2、電話 2、写真 2、写生 2

【生産物・用具】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

【自然物・自然現象】延べ 1 語 2 % 異なり 1 語 2 %

天気

用の類

【抽象的関係】延べ 1 語 2 % 異なり 1 語 2 %

通

【人間活動―精神・行為】延べ 2 語 3 % 異なり 1 語 2 %

主張 2

【自然物・自然現象】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

相の類

【抽象的関係】延べ 7 語 12 % 異なり 4 語 9 %

陳腐 4、結構、不自然、普通

【人間活動―精神・行為】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

【自然物・自然現象】延べ 0 語 0 % 異なり 0 語 0 %

その他の類 延べ 2 語 2 % 異なり 1 語 2 %

要 2

(3) 口語文に使用されている漢語

口語文で書かれた漢語は、延べ語数では 592 語中 530 語、異なり語数では 356 語中 305 語であった。

体の類

【抽象的関係】延べ103語19% 異なり58語19%

様21、以上7、方6、方々4、価値2、休講2、血統2、現象

2、昨夜2、先日2、大変2、同時2、難2、反対2、来年2

【人間活動の主体】延べ134語25% 異なり52語17%

僕37、自分7、人間7、教師5、小生5、大学5、文学者5、

先生4、学者3、学校3、君子3、先達3、校長2、細君2、

作家2、小説家2、小天地2、世界2、当分2

【人間活動―精神・行為】延べ155語29% 異なり106語35%

通知5、文章5、会話4、小説4、気4、休学3、教訓3、原

稿3、御馳走3、生活3、拝見3、博士3、文学3、維新2、

閑文字2、月給2、傑作2、講義2、御免2、写真2、趣味

2、所作2、想像2、風流2、不平2、満足2、名作2、迷惑

2、了見2

【生産物・用具】延べ13語2% 異なり8語3%

材料4、書斎2、文庫2、外套、寄宿舎、自宅、拙宅、蓄音機

【自然物・自然現象】延べ19語4% 異なり9語3%

神経衰弱6、胃病4、病氣2、生命2

用の類

【抽象的関係】延べ11語2% 異なり9語3%

活動3、換言、帰着、休講、生、前後、通、変化、滅亡

【人間活動―精神・行為】延べ21語4% 異なり19語6%

感2、勉強2

【自然物・自然現象】延べ1語0% 異なり1語0%

生存

相の類

【抽象的関係】延べ45語8% 異なり21語7%

大分5、到底5、妙5、結構4、決3、少々3、正反対2、単

2、段々2、非常2、普通2

【人間活動―精神・行為】延べ18語3% 異なり15語5%

鷹揚2、大事2、愉快2

【自然物・自然現象】延べ0語 異なり0語

その他の類 延べ10語2% 異なり7語2%

拝啓4、是非、草々、大丈夫、多分、頓首、無論

4、森田草平宛て書簡の漢語について

森田草平宛て書簡の漢語については紙幅の都合上、用例の掲載

を省略する。

候文で書かれた漢語は、延べ語数では126語中113語、異なり語数では102語中89語、文語文で書かれた漢語は、延べ語数では270語中232語、異なり語数では207語中172語、口語文で書かれた漢語は、延

明治 30 年代 正岡子規宛て書簡の漢語
 (『分類語彙表―増補改訂版―』を用いた分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)		候文	文語文	口語文
1. 体の類 (名詞など)	A 抽象的關係	23% (22%)	30% (32%)	19% (19%)
	B 人間活動の主体	13% (10%)	18% (15%)	29% (22%)
	C 人間活動―精神および行為	35% (40%)	17% (19%)	25% (24%)
	D 生産物および用具	2% (2%)	3% (4%)	1% (1%)
	E 自然物および自然現象	3% (4%)	3% (4%)	3% (3%)
2. 用の類 (動詞など)	F 抽象的關係	1% (0%)	6% (5%)	2% (3%)
	G 人間活動―精神および行為	8% (5%)	10% (10%)	11% (15%)
	H 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
3. 相の類 (形容詞など)	I 抽象的關係	10% (9%)	7% (7%)	7% (9%)
	J 人間活動―精神および行為	3% (2%)	3% (3%)	4% (5%)
	K 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
4. その他	L その他の類	4% (5%)	2% (1%)	0% (0%)

明治 30 年代 夏目鏡子宛て書簡の漢語
 (『分類語彙表―増補改訂版―』を用いた分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)		候文	文語文	口語文
1. 体の類 (名詞など)	A 抽象的關係	26% (25%)	27% (22%)	19% (20%)
	B 人間活動の主体	13% (10%)	12% (13%)	18% (15%)
	C 人間活動―精神および行為	23% (28%)	30% (31%)	27% (29%)
	D 生産物および用具	6% (7%)	0% (0%)	5% (5%)
	E 自然物および自然現象	6% (8%)	6% (7%)	3% (4%)
2. 用の類 (動詞など)	F 抽象的關係	1% (1%)	5% (6%)	1% (1%)
	G 人間活動―精神および行為	6% (5%)	1% (1%)	5% (5%)
	H 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
3. 相の類 (形容詞など)	I 抽象的關係	10% (9%)	12% (12%)	13% (10%)
	J 人間活動―精神および行為	4% (5%)	5% (4%)	7% (8%)
	K 自然物および自然現象	2% (1%)	1% (1%)	1% (0%)
4. その他	L その他の類	1% (1%)	0% (0%)	1% (1%)

べ語数では 1512 語中 1338 語、異なり語数では 689 語中 624 語であった。
 なお、漢語の分類結果を表に示す。

明治 30 年代 鈴木三重吉宛て書簡の漢語
 (『分類語彙表—増補改訂版—』を用いた分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)		候文	文語文	口語文
1. 体の類 (名詞など)	A 抽象的關係	12% (15%)	27% (27%)	19% (19%)
	B 人間活動の主体	0% (0%)	15% (16%)	25% (17%)
	C 人間活動—精神および行為	24% (30%)	37% (40%)	29% (35%)
	D 生産物および用具	4% (5%)	0% (0%)	2% (3%)
	E 自然物および自然現象	16% (10%)	2% (2%)	4% (3%)
2. 用の類 (動詞など)	F 抽象的關係	0% (0%)	2% (2%)	2% (3%)
	G 人間活動—精神および行為	16% (10%)	3% (2%)	4% (6%)
	H 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
3. 相の類 (形容詞など)	I 抽象的關係	4% (5%)	12% (9%)	8% (7%)
	J 人間活動—精神および行為	12% (15%)	0% (0%)	3% (5%)
	K 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
4. その他	L その他の類	12% (10%)	2% (2%)	2% (2%)

明治 30 年代 森田草平宛て書簡の漢語
 (『分類語彙表—増補改訂版—』を用いた分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)		候文	文語文	口語文
1. 体の類 (名詞など)	A 抽象的關係	22% (21%)	22% (22%)	20% (21%)
	B 人間活動の主体	17% (13%)	23% (14%)	20% (12%)
	C 人間活動—精神および行為	40% (46%)	32% (36%)	31% (33%)
	D 生産物および用具	0% (0%)	2% (1%)	1% (1%)
	E 自然物および自然現象	2% (2%)	5% (5%)	1% (2%)
2. 用の類 (動詞など)	F 抽象的關係	0% (0%)	3% (4%)	3% (4%)
	G 人間活動—精神および行為	4% (2%)	5% (6%)	7% (10%)
	H 自然物および自然現象	0% (0%)	0% (1%)	0% (0%)
3. 相の類 (形容詞など)	I 抽象的關係	9% (9%)	5% (6%)	10% (9%)
	J 人間活動—精神および行為	3% (3%)	3% (3%)	5% (8%)
	K 自然物および自然現象	1% (1%)	0% (0%)	0% (0%)
4. その他	L その他の類	1% (1%)	1% (2%)	2% (1%)

(1) 候文に使用されている漢語

夏目漱石の友人・正岡子規宛て、門下生・鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の漢語で、最も割合が高かった項目は、延べ語数、異なり語数共に体の類「C人間活動―精神・行為」であった。

妻の夏目鏡子宛てのみ延べ語数では「A抽象的關係」の割合が最も高く、異なり語数では「C人間活動―精神・行為」の割合が最も高くなった。

正岡子規宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「俳句4」、「書籍2」、「小説」などの文学に関する漢語、「郵便2」、「見物」、「勉強」など漱石自身の状況に関する漢語、「御自愛」、「御注意」、「御療養」など療養中の子規を心配する思いを伝える漢語などが採録された。

門下生・鈴木三重吉宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「御参考」、「御覧」など書簡文において一般的でやや形式的な漢語が多く使用されていた。このことから、鈴木三重吉宛ての書簡の場合、重要なことを伝える漢語は他の文体で使用されていると考えられる。

門下生・森田草平宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「文章2」、「賛成2」、「拝見2」、「翻訳」など文学に関する語や「及第」、「口述試験」、「卒業」など大学に関係する語彙を多く採

録した。

一方、夏目鏡子宛ての場合、延べ語数では体の類「A抽象的關係」の割合が最も高く、「C人間活動―精神・行為」は二番目であった。

しかし、異なり語数では他の三人宛てと同様に「C人間活動―精神・行為」の割合が最も高くなった。夏目鏡子宛て書簡の「C人間活動―精神・行為」では、「下宿9」、「勉強6」、「服装4」、「博覧会3」などの漢語が採録できた。ロンドン留学中に書いた書簡が多いため、留学先での生活や勉強に関する漢語が多くみられる。また、「御養育3」、「御心配2」という漢語も使用されており、日本にいる長女のことなどを気にかけていたため採録できたとと思われる漢語もみられた。

夏目鏡子宛て書簡の漢語で延べ語数の割合が最も高かった体の類「A抽象的關係」では、「当地22」、「様22」、「到着10」、「帰朝5」、「上陸5」など、ロンドンのことを指す「当地」という漢語や留学に伴う移動に関する漢語を多く採録した。家族に対して、異国にいる自分自身の状況を簡潔に伝えたいという思いから、候文の中でこのような漢語を用いたのではないかと考える。また、これらの語の延べ語数が多かったことが、延べ語数の割合に影響を与えたと考えられる。

(2) 文語文に使用されている漢語

夏目漱石の妻・夏目鏡子、門下生・鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の漢語で、最も割合が高かった項目は、延べ語数、異なり語数共に体の類「C人間活動―精神・行為」であった。友人・正岡子規宛てのみ延べ語数、異なり語数共に体の類「A抽象的關係」の割合が最も高かった。

夏目鏡子宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「音信3」、「注意2」、「写真2」、「義務」、「教育」、「義理」、「幼名」などの漢語がみられた。これらの漢語は、留学中に離れて暮らす家族に對して様々な忠告を書いたために採録できたと考えられる。

門下生・鈴木三重吉宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「会話2」、「電話2」、「写真2」、「写生2」、「写生文」、「批評」など、文学に関する漢語が採録できた。なお、「会話2」、「電話2」、「写真2」などは、鈴木三重吉の作品に対するアドバイスの中で用いられている語であるため、これらの語も文学に関する漢語であると考ええる。

門下生・森田草平宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「小説6」、「学問2」、「博士2」、「文章2」、など、候文の場合と同様に、文学や学問に関する漢語が採録できた。

一方、友人・正岡子規宛てで最も割合が高かったのは、「A抽

象的關係」であった。「往年」、「過日」、「近日」、「現在」、「次第」、「時節」、「今回」、など時間に関わる漢語が多く採録できた。このような時間に関わる漢語の多くは、候文と文語文の両方の文体を混せて書いた書簡の文語文の中に多くみられた。候文と文語文を混せて書いた書簡では、書簡の冒頭は正式な候文で書き、話の本題に入るときなどに文語文に切り替え、その時に時間に関わる漢語を使用したために「A抽象的關係」の割合が高くなったのではないかと考える。このように考えると、候文と文語文という組み合わせで書いた書簡の割合（正岡子規宛て書簡では13通中3通23%、夏目鏡子宛てでは23通中4通17%、鈴木三重吉、森田草平宛てでは0通0%）が結果的に漢語の意味分類の割合に影響を与えているのではないかと考えられる。

(3) 口語文に使用されている漢語

夏目鏡子宛て、門下生・鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の漢語で最も割合が高かった項目は延べ語数、異なり語数共に体の類「C人間活動―精神・行為」であった。友人・正岡子規宛てのみ延べ語数では体の類「B人間活動の主体」の割合が最も高く、異なり語数では体の類「C人間活動―精神・行為」の割合が最も高くなった。

夏目鏡子宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「下宿5」、

「郵便4」、「写真3」、「書物3」、「散歩」、「洗濯」など、留学中の下宿先での生活に関連する漢語が多く採録できた。「郵便」という漢語は、夏目鏡子に対してロンドンへの書簡の送り方を教えている文章などから採録し、留学先から確実に家族の情報を得たという漱石の思いを反映していると考えられる。

門下生・鈴木三重吉宛ての「C人間活動―精神・行為」では、「通知5」、「文章5」、「会話4」、「小説4」、「原稿3」、「傑作2」、「趣味2」など文学に関わる漢語が多く、漱石が様々なアドバイスをした結果であると考えられる。

門下生・森田草平宛ての「C人間活動―精神・行為」でも、「気15」、「文章15」、「趣味13」、「態度12」、「人情8」、「小説7」、「批評7」など文学や創作活動に関わる漢語が多く採録できた。

一方、友人・正岡子規宛ての延べ語数で最も割合が高かったのは、体の類「B人間活動の主体」であった。「地獄6」、「僕5」、「先生3」、「無神論者2」、「豪傑」、「侯爵」、「美人」、「病人」などが採録できた。なお、「地獄」や「無神論者」は漱石がロンドン滞在中に聞いた「大道演説」について述べた文から採録した。療養中の親友・正岡子規に対して、実際に聞いた内容を忠実に書くために同じ漢語を繰り返し使用するなど、ロンドンでの生活を詳しく伝えたいという思いが「B人間活動の主体」の割合に影響

を与えたと考えられる。

友人・正岡子規宛ての異なり語数で最も割合が高かったのは他の三人宛てと同様に「C人間活動―精神・行為」であった。「勝負3」、「演説2」、「義務2」、「意見」、「御無沙汰」、「自慢」、「冗談」などが採録できた。他の文体の場合に比べて文学に関する漢語が少なかった。このことから、正岡子規宛ての候文や文語文の書簡では文学に関わる内容を多く書いていたのに対し、口語文の書簡ではロンドンでの出来事を詳細に書くということを重視していたと考えられる。

Ⅱ 漢語の字数による分類

候文、文語文、口語文の漢語を字数によって分類し、漱石の語彙の特徴を調査する。

1、正岡子規宛て書簡の漢語について

(1) 候文に使用されている漢語

【一字漢語】延べ語数46語13% 異なり語数20語8%

存13、句4、方4、様4、実3、供2、単2、頓2

【二字漢語】延べ語数249語70% 異なり語数190語72%

小生10、以上5、教師5、自由4、俳句4、希望3、御覧3、少々3、到底3、場合3、目下3、依頼2、外務2、過日2、

価値 2、学校 2、校長 2、御免 2、自信 2、車夫 2、周旋 2、主人 2、詳細 2、書籍 2、新年 2、随分 2、先日 2、大概 2、多少 2、当地 2、到着 2、病氣 2、変化 2、郵便 2、様子 2

【三字漢語】 延べ語数 50 語 14% 異なり語数 46 語 17%

翻訳官 3、御笑覧 2、御伝声 2

【四字漢語】 延べ語数 8 語 2% 異なり語数 8 語 3%

遺稿出版、一筆啓上、今春期休、市中散歩、職掌事務、内閣成立、俳友諸兄、文学三昧

【五字漢語】 延べ語数 1 語 0% 異なり語数 1 語 0%

腰部切開後

【六字漢語】 延べ語数 0 語 0% 異なり語数 0 語 0%

(2) 文語文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数 19 語 14% 異なり語数 17 語 14%

考 2、刻 2

【二字漢語】 延べ語数 107 語 78% 異なり語数 92 語 76%

小生 5、自覚 3、以上 2、一転 2、教師 2、糊口 2、少々 2、是非 2、当地 2、父母 2、目下 2

【三字漢語】 延べ語数 7 語 5% 異なり語数 7 語 6%

高等官、詩文稿、主計課、真善美、電信線、墓碑銘、翻訳官

【四字漢語】 延べ語数 4 語 3% 異なり語数 4 語 3%

高等学校、商業学校、前後兩篇、伝記抄録

【五字漢語】、【六字漢語】 延べ語数 0 語 0% 異なり語数 0 語 0%

(3) 口語文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数 22 語 18% 異なり語数 15 語 17%

僕 5、様 4、関、実、称、信、説、対、単、地、頓、駁、弁、方、予

【二字漢語】 延べ語数 84 語 71% 異なり語数 63 語 70%

地獄 6、時間 3、勝負 3、先生 3、演説 2、義務 2、御免 2、新聞 2、西洋 2、大変 2、通信 2、人間 2、拝見 2、病氣 2

【三字漢語】 延べ語数 7 語 6% 異なり語数 7 語 8%

形容詞、御勘弁、御存知、柔術使、日曜日、雄弁法、理想的

【四字漢語】 延べ語数 5 語 4% 異なり語数 4 語 4%

無神論者 2、御無沙汰、大道演説、編輯多忙

【五字漢語】 延べ語数 0 語 0% 異なり語数 0 語 0%

【六字漢語】 延べ語数 1 語 1% 異なり語数 1 語 1%

退職陸軍大佐

2、夏目鏡子宛て書簡の漢語

(1) 候文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数 17 語 11% 異なり語数 51 語 8%

存29、様22、方4、昨3、実3、妙3、案2、関2、件2、候2、着2、晚2、美2、楽2

【一字漢語】延べ語数71語73% 異なり語数44語73%

当地22、小生20、丈夫11、下宿10、到着10、結構8、非常8、勉強8、無事8、小児7、書状7、病氣7、少々6、随分6、日記6、馬車6、氣候5、汽車5、帰朝5、見物5、承知5、上陸5、鉄道5、到底5、閉口5、今度4、困難4、散歩4、時間4、至極4、次第4、写真4、上等4、親切4、身体4、贅沢4、先生4、都合4、拝啓4、拝見4、別段4、服装4、以上3、以来3、外套3、見当3、混雑3、昨夜3、止宿3、書信3、書面3、成人3、世界3、沢山3、転居3、人間3、繁華3、普通3、落手3、立派3、安心2、安直2、安堵2、以下2、以後2、一見2、一向2、運動2、海中2、擱筆2、加減2、家族2、下等2、寒氣2、感心2、帰宅2、気分2、世話2、奇麗2、金力2、下女2、健康2、交際2、妻君2、紫檀2、時分2、自分2、種々2、主人2、出産2、出発2、出帆2、商人2、上品2、食事2、食物2、書生2、書物2、新年2、辛防2、珍重2、船客2、洗髪2、壮健2、大事2、大抵2、大分2、男子2、着後2、著書2、電気2、当分2、得意2、途方2、日中2、半分2、貧乏2、夫婦2、仏画2、

変化2、無地2、無論2、目下2、厄介2、愉快2、旅館2、洋服2、両女2、様子2

【三字漢語】延べ語数147語14% 異なり語数95語16%

日本人14、公使館5、西洋人5、燕尾服4、留守中4、御安神3、御注意3、御無事3、御養育3、博覧会3、印度人2、御安産2、御安心2、御看病2、御心配2、御全快2、御伝言2、御病氣2、女学校2、植物園2、碇泊中2、博物館2、不愉快2、洋行生2、留学中2

【四字漢語】延べ語数21語2% 異なり語数16語3%

熱帯地方3、鉄道馬車2、地下鉄道2、神經衰弱2

【五字漢語】延べ語数2語0% 異なり語数2語0%

試験準備中、電鉄地下鉄

【六字漢語】延べ語数1語0% 異なり語数1語0%

高等学校教授

(2) 文語文に使用されている漢語

【一字漢語】延べ語数17語18% 異なり語数12語15%

様5、余2、感、関、決、字、通、封、弊、妙、礼

【二字漢語】延べ語数67語71% 異なり語数58語73%

音信3、到着3、写真2、少々2、相応2、注意2、様子2、必要2

【三字漢語】 延べ語数9語10% 異なり語数9語11%

帰朝後、教育上、健康上、御心配、御両親、西洋人、誕生地、
伝染病、留学生

【四字漢語】 延べ語数1語1% 異なり語数1語1%

下等社会

【五字漢語】、【六字漢語】 延べ語数0語 異なり語数0語

(3) 口語文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数46語11% 異なり語数24語9%

様14、実7、便3、決2

【二字漢語】 延べ語数319語79% 異なり語数215語80%

自分6、心配6、先達6、一向5、下宿5、人間5、少々4、
大変4、博士4、舞台4、郵便4、覚悟3、強情3、自身3、
写真3、丈夫3、書面3、書物3、世間3、智識3、著書3、
電気3、当地3、病氣3、落第3、安心2、一所2、衣服2、
陰気2、狂言2、気楽2、結構2、古人2、御覧2、妻君2、
材料2、時機2、地獄2、市中2、修業2、淑女2、承知2、
書生2、世帯2、掃除2、大体2、多分2、道具2、
到底2、突然2、非常2、夫婦2、婦人2、閉口2、勉強2、
洋行2、理想2、立派2

【三字漢語】 延べ語数34語8% 異なり語数25語9%

郵便日3、無沙汰3、年始状3、大活眼2、大丈夫2、御兩人2

【四字漢語】 延べ語数4語1% 異なり語数4語1%

一挙一動、活動写真、御不自由、臨機応変

【五字漢語】 延べ語数2語0% 異なり語数2語1%

帰国旅行費、役者の人物

【六字漢語】 延べ語数0語0% 異なり語数0語0%

3、鈴木三重吉宛て書簡の漢語

(1) 候文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数3語11% 異なり語数1語4%

存3

【二字漢語】 延べ語数15語54% 異なり語数14語61%

拝啓2

【三字漢語】 延べ語数6語21% 異なり語数6語26%

御教示、御参考、御親切、御報知、無教育、無良心、

【四字漢語】 延べ語数4語14% 異なり語数2語9%

神経衰弱3、誤字誤植

【五字漢語】、【六字漢語】 延べ語数0語0% 異なり語数0語0%

(2) 文語文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数13語18% 異なり語数10語19%

僕3、要2、解、作、転、通、評、部、様、例

【二字漢語】 延べ語数49語69% 異なり語数36語67%

陳腐4、以上3、会話2、写真2、写生2、趣向2、主張2、全篇2、調子2、電話2

【三字漢語】 延べ語数8語11% 異なり語数7語13%

写生の2、御出張、写生文、主人公、小説家、大欠点、不自然

【四字漢語】 延べ語数1語1% 異なり語数1語2%

写生趣味

【五字漢語】 延べ語数0語0% 異なり語数0語0%

(3) 口語文に使用されている漢語

【一字漢語】 延べ語数110語19% 異なり語数37語10%

僕37、様21、方6、妙5、気4、決3、感2、単2、難2

【二字漢語】 延べ語数40語68% 異なり語数25語72%

以上7、自分7、人間7、教師5、小生5、大学5、大分5、通知5、到底5、文章5、胃病4、会話4、結構4、材料4、方々4、先生4、拝啓4、小説4、学者3、学校3、活動3、休学3、休講3、教訓3、君子3、原稿3、少々3、生活3、先達3、想像3、沢山3、拝見3、博士3、普通3、文学3、迷惑3、維新2、鷹揚2、価値2、月給2、傑作2、血統2、現象2、講義2、校長2、御免2、妻君2、細君2、昨夜2、

作家2、写真2、趣味2、所作2、書齋2、生命2、世界2、

先日2、大事2、大変2、段々2、同時2、当分2、馬鹿2、

反対2、非常2、病氣2、風流2、不平2、文庫2、別嬪2、変化2、勉強2、満足2、名作2、了見2、来年2、愉快2

【三字漢語】 延べ語数52語9% 異なり語数42語12%

文学者5、御馳走3、閑文字2、小説家2、小天地2、正反対2

【四字漢語】 延べ語数21語4% 異なり語数16語4%

神經衰弱6

【五字漢語】 延べ語数5語1% 異なり語数4語1%

神經衰弱論2、近世奇人伝、俳諧的文学、文学的滑稽

【六字漢語】 延べ語数0語 異なり語数0語

4、森田草平宛て書簡の漢語

森田草平宛て書簡の漢語については紙幅の都合上、用例の掲載を省略する。なお、漢語の分類結果を表に示す。

明治 30 年代 正岡子規宛て書簡の漢語
(漢語の字数による分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)	候文	文語文	口語文
一字漢語	13% (8%)	14% (14%)	18% (17%)
二字漢語	70% (72%)	78% (77%)	71% (70%)
三字漢語	14% (17%)	5% (6%)	6% (8%)
四字漢語	2% (3%)	3% (3%)	4% (4%)
五字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
六字漢語	0% (0%)	0% (0%)	1% (1%)

明治 30 年代 夏目鏡子宛て書簡の漢語
(漢語の字数による分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)	候文	文語文	口語文
一字漢語	11% (8%)	18% (15%)	11% (9%)
二字漢語	73% (73%)	71% (73%)	79% (80%)
三字漢語	14% (16%)	10% (11%)	8% (9%)
四字漢語	2% (3%)	1% (1%)	1% (1%)
五字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (1%)
六字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

明治 30 年代 鈴木三重吉宛て書簡の漢語
(漢語の字数による分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)	候文	文語文	口語文
一字漢語	11% (4%)	18% (19%)	19% (10%)
二字漢語	54% (61%)	69% (67%)	68% (72%)
三字漢語	21% (26%)	11% (13%)	9% (12%)
四字漢語	14% (9%)	1% (2%)	4% (4%)
五字漢語	0% (0%)	0% (0%)	1% (1%)
六字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

明治 30 年代 森田草平宛て書簡の漢語
(漢語の字数による分類)

延べ語数の割合 (異なり語数の割合)	候文	文語文	口語文
一字漢語	21% (17%)	18% (15%)	19% (9%)
二字漢語	67% (69%)	70% (71%)	73% (78%)
三字漢語	10% (12%)	8% (9%)	6% (10%)
四字漢語	2% (3%)	4% (3%)	2% (3%)
五字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
六字漢語	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

（1）候文に使用されている漢語

正岡子規、夏目鏡子、鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の候文の漢語では、延べ語数・異なり語数共に二字漢語の割合が最も高かった。二番目、三番目に割合が高かった項目は人物によって差がみられた。正岡子規、夏目鏡子、鈴木三重吉宛てでは延べ語数・異なり語数共に二番目に割合が高い項目は三字漢語、三番目は一字漢語という順になった。一方、森田草平宛てのみ延べ語数・異なり語数共に二番目に割合が高い項目は一字漢語、三番目は三字漢語という順になった。漢語の字数に関して以下の特徴がみられた。

【二字漢語について】

どの人物宛てにも共通しているのは、「存」の使用割合が最も高いという点である。このことは、候文の特徴である「～存候」という書き方によるものであるといえる。また、「方」、「様」の使用割合も高かったが、候文の特徴とまでは言い難いと思われる。

森田草平宛てでは、延べ語数・異なり語数共に三字漢語よりも一字漢語の割合が高かった。他の人物宛ての候文ではみられなかった一人称「僕4」を採録した点が特徴的であり、一字漢語の割合を高かった一因であるとも考えられる。

候文の中で一人称を表す漢語は、本稿の調査範囲では二字漢語の「小生」が最も多かった。「余」も夏目鏡子宛てで使用されていたが一例のみであった。一方「僕」は、明治三十九年の森田草平宛て書簡四通にそれぞれ一例ずつ使用されていた。

なお、この四通の文体構成は、書簡番号五七九、六二一、六七二では混合文（候文と文語文と口語文を混ぜて書いている。）の書簡、書簡番号七二九は候文のみの書簡である。

このことから、本稿の調査において、候文で「僕」を使用しているのは、はじめの頃は混合文での使用が多く、後に候文のみの書簡でも使用していると考えられる。

これは一人称「僕」を多く使用する口語文（3）口語文に使用されている漢語で後述。）の影響が強かったからではないかと考える。

まず、混合文の書簡に関しては、口語文だけでは書簡文としてのまとまりが感じられず、それを補うために候文を用いたのではないかと考える。つまり、一通の書簡の中で明治時代の正統な書簡文体であった候文の方が補助的な役割を担うようになり、口語文が大部分を占めるようになると、口語文で比較的多く使用される一人称「僕」を候文でも使用した方が統一感のある書簡になると考えたのではないかと思われる。

次に、候文のみの書簡（書簡番号七二九）で一人称「僕」が使用されていることについては、書簡の内容に応じて、形式的に候文を用いながらも、語彙はより自然で率直に意味を伝えられる口語文で使用する語を使うようになったのではないかと考える。

【二字漢語について】

二字漢語はどの人物宛てに対しても最も割合が高かった。

正岡子規宛て、夏目鏡子宛て書簡では、鈴木三重吉宛て、森田草平宛ての書簡に比べて一人称である「小生」を多く採録した。

このことは、正岡子規宛て、夏目鏡子宛て書簡の方が候文の割合が高いためであると考えられる。

【三字漢語について】

候文において特徴的であったのは「御＋二字漢語」という三字漢語が多く採録できた点である。

三字漢語において「御＋二字漢語」という漢語は、正岡子規宛て、鈴木三重吉宛て、森田草平宛てでは五割以上使用されていた。

一方、夏目鏡子宛てでは四割程度であった。「日本人14」、「公使館5」、「西洋人5」、「燕尾服4」、「留守中4」、「博覧会3」など留学先での状況や事物について伝える三字漢語が比較的多かったためであると考えられる。

また、夏目鏡子宛てで、次のような特徴がみられた。一般的には「御安心」と書くが、「御安神」と書く例が三例みられた。この三例は、それぞれ異なる書簡で用いていることから、誤字ではなく、比較的多く用いる漢語（「御安神」と「御安心」の延べ語数を合算すると五語で、夏目鏡子宛て書簡の候文の「御＋二字漢語」で最も多くなる）に変化を付けて強調しようと意図的に用いたのではないかと考える。この「御安神・御安心」という漢語が使用されているのは、本稿の調査範囲ではロンドン留学中に鏡子宛に書いた書簡のみで、夏目鏡子に対して、自分自身の無事を知らせる意味合いで使用されている。遠く離れて暮らす家族に対して、最も伝えたい思いだったからこそ、表記に変化を持たせたのではないかと考える。また、夏目鏡子からの書簡で家族の無事を知って安心したという場合は、「安堵」や「皆々元氣にて結構に存候」と書いている。

【四字漢語について】

四字漢語は、どの人物宛てにおいても四番目の割合であった。

正岡子規宛てでは、四字熟語「一筆啓上」を採録した。なお、四字熟語の認定には『大修館 四字熟語辞典』^{注5}を参考とした。この他に「市中散歩」、「文学三昧」など漱石自身の生活に関することや、「内閣成立」（書簡番号一一九）のように政治に関する漢語も

採録できた。親友である正岡子規に対しては、日常生活や文学のことだけでなく、政治に関する内容も含め、様々な情報交換をしていたと考えられる。

夏目鏡子宛てでは、四字熟語「光風霽月」、「青天白日」を採録した。どちらも気候や天気に関する語である。この他に「地下鉄道2」、「水道鉄管」、「鉄道馬車」など留学先での事物に関する四字漢語を多く採録した。夏目鏡子宛てでは、文学に関する四字漢語は採録できなかった。このことから、夏目鏡子宛てで四字漢語を使用する場合は、生活を送る上での考えや事物について表現する際に使用する可能性が高いと考えられる。

鈴木三重吉宛てでは、「神経衰弱3」、「誤字誤植」という精神面や文学に関する漢語を採録した。森田草平宛てでは、「口述試験」、「尊稿出版」、「墮落文学」という大学や文学に関する漢語を採録した。鈴木三重吉、森田草平宛てでは四字熟語は採録できなかった。

候文で採録した四字漢語の中で、四字熟語に属す漢語は三語だけであった。このことから、本稿の調査範囲では候文での四字熟語の使用割合は低いと考えられる。

なお、五字漢語は三語、六字漢語は一語しか採録できなかったが、どの漢語も字数が多いが理解しやすい漢語であるように思わ

れる。

(2) 文語文に使用されている漢語

正岡子規、夏目鏡子、鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の文語文の漢語では、どの人物宛ての場合も延べ語数・異なり語数共に二字漢語の割合が最も高く、次いで一字漢語、三字漢語、四字漢語という順になった。漢語の字数に関して特徴がみられた点を以下に述べる。

【一字漢語について】

一人称の一字漢語に関しては、夏目鏡子宛てで「余2」、鈴木三重吉宛てで「僕3」、森田草平宛てで「余11」と「僕2」を採録した。漱石の場合、文語文での一人称を表す一字漢語は「余」の使用が多かったと思われるが（一人称では、この他に二字漢語「小生」も多く使用されている）、明治三十九年の鈴木三重吉、森田草平宛てでは「僕」が使用されている。

また、口語文との混合文（口語文と文語文、候文が混ざって書かれている）の書簡だけではなく、文語文のみで書かれた書簡二通（森田草平宛て書簡番号五五四と鈴木三重吉宛書簡番号七三五）からも一人称「僕」を採録した。

前述した（1）候文に使用されている漢語の場合と同様に、このことは口語文の影響によって、文語文の語彙に変化がみられた

のではないかと考える。

【二字漢語について】

二字漢語はどの人物宛ての場合でも最も割合が高かった。

また、どの人物に対してても、一人称を表す二字漢語「小生」が使用されていた。このことから、一人称については前述した一字漢語「余」と二字漢語「小生」を用いることが比較的多かったと考えられる。

【三字漢語について】

文語文での「御＋二字漢語」という三字漢語の使用割合は、多い場合でも二割程度であった。候文の場合は四割以上使用されていたため、文語文での「御＋二字漢語」という三字漢語の使用割合は、候文に比べて低いといえる。

【四字漢語について】

森田草平宛て書簡では、他の人物宛てに比べると多くの四字漢語が採録できた。精神面や大学、文学に関する四字漢語が多かった。なお、文語文の四字漢語では、四字熟語は採録されなかった。

五字漢語に関しては森田草平宛てで「神経衰弱会」一語、六字漢語に関しては森田草平宛てで「大神経衰弱者」一語を採録した。

どちらの語も「神経衰弱」という語彙を含んでおり、このことが字数の増加の要因であると考えられる。

また、四字漢語の「神経衰弱4」と五字漢語「神経衰弱会」、六字漢語「大神経衰弱者」は一通の書簡の中（書簡番号五九七）で全て使用されているため、森田草平宛てに字数の多い漢語が使用されているというよりも書簡の内容が大きく影響したと考えられる。

（3）口語文に使用されている漢語

正岡子規、夏目鏡子、鈴木三重吉、森田草平宛て書簡の口語文の漢語では、どの人物宛ての場合も延べ語数・異なり語数共に二字漢語の割合が最も高かった。正岡子規、夏目鏡子、鈴木三重吉、森田草平宛ての漢語の延べ語数で二番目に高かったのは一字漢語であり、三番目に高かったのは三字漢語であった。

一方、異なり語数では変化がみられた。正岡子規宛てでは、延べ語数の場合と同様に二番目は一字漢語、三番目は三字漢語という順になった。夏目鏡子宛てでは、一字漢語と三字漢語の割合が同じであった。鈴木三重吉、森田草平宛てでは、異なり語数の場合、二番目は三字漢語、三番目は一字漢語という順になった。

【一字漢語について】

一人称の一字漢語に関しては、どの人物宛てに対しても「僕」が用いられていた。

また、一字漢語の延べ語数と異なり語数を比較すると、正岡子

規宛てと夏目鏡子宛てでは延べ語数に対し、異なり語数が約2%減少するだけであるのに対し、鈴木三重吉、森田草平宛てでは約10%も減少する。鈴木三重吉、森田草平宛て書簡は、正岡子規、夏目鏡子宛てに比べて口語文で書かれた書簡が多い。その中で「僕」、「様」が繰り返し使用されたため、このような結果になったと考えられる。

【二字漢語について】

鈴木三重吉、森田草平宛てでは、一人称を表す二字漢語は「小生」が使用されていた。しかし、前述した「僕」に比べて、延べ語数が少ないため、漱石の場合、口語文での一人称は「僕」を使用することが多かったと考えられる。

また、正岡子規宛て、夏目鏡子宛て書簡では「小生」は採録されなかった。なお、一人称に関しては、夏目鏡子宛ての口語文の書簡では「おれ」という表現が多くみられた。本稿では、漢語を対象としているため採録はしなかったが、このような表現は、夏目鏡子宛ての候文・文語文の書簡、正岡子規、鈴木三重吉、森田草平宛ての書簡ではみられなかった。家族宛てであり、かつ口語文であるということから、普通に会話をする時により近い表現で、内容を伝えようとしたのではないかと考える。

したがって、口語文における一人称に関しては、友人・正岡子

規宛てでは「僕」、夏目鏡子宛てでは「おれ」が多く、「僕」は一例みられ、鈴木三重吉、森田草平宛てでは、「僕」または「小生」が使用されていた。このことから、友人、家族に対してより会話に近い表現を用い、師弟関係にある人物宛てには、やや形式的な表現である「小生」も内容に応じて使用していたと考えられる。漱石は自分自身の立場や書簡の内容によって文体や語彙に工夫をし、相手に対してどのような書簡が最も適切かを常に考え、実践していたのではないかと考えられる。

【三字漢語について】

候文において特徴的であった「御＋二字漢語」という三字漢語の使用割合は、口語文では多い場合でも三割程度であった。候文の場合は、四割以上使用されていたため、口語文での「御＋二字漢語」という三字漢語の使用割合は候文に比べて低いといえる。

【四字漢語について】

口語文で採録した四字漢語の中で、四字熟語に属す漢語は八語採録できた。口語文で特徴的であったのは、四字熟語をそれぞれ異なる書簡で使用している点である。口語文の中で四字熟語を繰り返し使用すると、文章が硬くなり、強調したい部分がかりにくくなる可能性があったからであると考ええる。このことから、漱石は書簡を書く際に、相手にとって分かりやすいかという点を大

事にしていたと考えられる。

五字漢語については、正岡子規宛てでは採録されず、夏目鏡子宛てでは生活に関する語など、鈴木三重吉、森田草平宛てでは文学に関する語を採録した。

六字漢語については、正岡子規宛てと森田草平宛てで一語ずつ採録でき、どちらも人物を表現する語集であった。

Ⅲ『分類語彙表―増補改訂版』に記載されていない漢語

漢語の字数の調査では、『分類語彙表』に記載されていない漢語には、例えば「宏大」(夏目鏡子宛て書簡番号二〇三)のように意味は難解ではないが、表記が一般的ではない場合、「留学中」(夏目鏡子宛て書簡番号二〇四)「金銭上」(夏目鏡子宛て書簡番号六五一)など「留学+中」「金銭+上」と考えられ一語として記載されていない場合、明確な基準は設定し難いが、「囊底」(正岡子規宛て書簡番号一三七)のように、やや難解で一般的に使用されない場合の三つの場合があると考ええる。

『分類語彙表』に記載されていない漢語で、かつ少々難解と思われる漢語を調査する。

(1) 候文に使用されている漢語

正岡子規宛てでは、「窮陰」^{きゆういん}、「購求」^{こうきゅう}、「囊底」^{のうてい}、「彪然」^{ひょうぜん}、「臚列」^{ろれつ}

などがみられた。

夏目鏡子宛てでは、「疑懼」^{ぎく}、「蕭々」^{しょうしやう}、「濛々」^{もうもう}などがみられた。鈴木三重吉宛てでは、「頂戴」^{ちやうだい}、「無良心」^{むりょうしん}などがみられたが、難解であるとはいえないと思われる。

森田草平宛てでは、「万縷」^{ばんる}、「必竟」^{ひつきやう}などがみられた。

友人・正岡子規宛ての漢語には、難解な漢語が多いように思われる。夏目漱石の親友で、かつ知識人である子規に対しては、難解な漢語も含め、様々な語彙を用いて書簡を書いていたと考えられる。夏目鏡子宛てでもやや難解な漢語が少しみられた。

また、候文の書簡が少ない鈴木三重吉、森田草平宛てでは難解な漢語は少なかった。このことから、候文の割合が減少することによって、やや難解な漢語も減少すると考えられる。したがって、漱石は、明治時代に書簡文の正統であるとされた候文では、他の文体に比べると、やや硬く難解な漢語を使用した可能性が高いと考えられる。

(2) 文語文に使用されている漢語

正岡子規宛てでは、「梧下」^{ごか}、「詩腸」^{しじやう}、「眉宇」^{びう}、「明鏡」^{めいきやう}などがみられた。

夏目鏡子宛てでは、「劍呑」^{けんのん}、「封蠟」^{ふうろう}などがみられたが、意味はさほど難解でないと思われる。

鈴木三重吉宛てでは、難解であると思われる語はみられなかった。森田草平宛てでは、「汲々」^{きつ々}、「紅炉上」^{こうろじやう}、「詩想」^{ししやう}、「反照」^{はんしやう}などがみられた。

正岡子規宛てと森田草平宛ての漢語には、漢文に使用されるような表現が多く使用されている。

友人・正岡子規とは漢詩や俳句のやり取りをしていたため、このような漢語を使用することに抵抗はなかったのだと考えられる。森田草平宛てに関しては、書簡番号六八五（明治三九年一〇月二一日）は口語文であるのに対し、ほぼ同じ頃に書いたと思われる書簡番号六八六の大部分は文語文であり、森田草平からの深刻であると思われる相談に対して、漱石の考えを書いた書簡である。この中で、

「這般の事豈君が風月の天地を懊惱するに足らんや。君が生涯は是からである。功業は百歳の後に価値が定まる。（中略）只眼前に汲々たるが故に進む能はず。（中略）君の偉大なるを切実に感じ得るとき這般の因果は紅炉上の雪と消えるべし。」^{注6}

と書き、森田草平を励ましている。

このことから、特別な状況の場合の書簡では、文体に変化を持たせているのではないかと考える。書簡番号六八六では、文語文

の中でも、漢文直訳体に近い書き方をしている。森田草平宛て書簡において、やや難解で、漢文風の語彙が採録できたのは、書簡の内容にインパクトを持たせようとしたことが一因ではないかと考える。

（3）口語文に使用されている漢語

正岡子規宛てでは、「仕儀」^{しぎ}、「酔興」^{すいきやう}、「駁（し）」^{ばく}などがみられた。

夏目鏡子宛てでは、「輕羅」^{けいら}、「殿閣」^{でんかく}、「良賈」^{りやうこ}、「深藏」^{しんざう}などがみられた。

鈴木三重吉宛てでは、「刻下」^{こつか}、「徳義心」^{とくぎしん}などがみられた。森田草平宛てでは、「陋3」^{ろう}、「呪咀」^{じゆそ}、「証得」^{しやうとく}、「必竟」^{ひつきやう}、「飄浪」^{ひやう}、「面語」^{めんご}などがみられた。

夏目鏡子宛ての「輕羅」や「殿閣」という漢語は、留学先のロンドンで見た劇で使用されていたものを説明する際に用いられている。

また、夏目鏡子宛て書簡（明治三五年書簡番号二四三）で、鏡子の弟・中根倫^{ひとし}に対して

「良賈は深藏あるなきが如しと言うから無暗に人を凌いだり出過ぎたりしてはいけな^{注7}

という文を書いているが、これは『史記』「老子伝」を引用して

いる。このように、口語文の中で、漢文の一節を引用する例がみられたため、やや難解な漢語が採録できたと考えられる。

おわりに

漱石の書簡の漢語を文体と語彙にどのような特徴がみられるのか見て来た。判明したことは次の通りである。

- ・ 候文では「C人間活動―精神および行為」の漢語の割合が高い。
- ・ 文語文でも「C人間活動―精神および行為」の漢語の割合が高い。が、時間に関する漢語などが多く採録されたときには「A抽象的関係」の割合が高くなる場合もある。
- ・ 口語文でも「C人間活動―精神および行為」の割合が高いが、出来事を忠実に書くために同じ漢語を繰り返し使用することなどによって「B人間活動の主体」の割合が高くなる場合もある。
- ・ 候文の一字漢語では「存」の使用割合が最も高い。
- ・ 文体、どの人物宛てかに関わらず二字漢語の割合が最も高い。
- ・ 候文では他の文体に比べ、三字漢語「御＋二字漢語」の割合が高い。

・ どの文体であっても四字熟語の使用は少ない。

・ 四字熟語を使用する場合、一通の中で最も多い場合でも二語までである。

・ 六字漢語は文体に関わらず、全て人物を表現する漢語であった。

文体に関して、漱石は状況に応じて使い分けていたと考えられるが、語彙の意味分類に関しては書簡の内容に影響を受けることが多いように思われる。

友人・正岡子規宛てでは、仕事、文学、ロンドンでの生活、療養中の子規のことなどに関する漢語を多く採録した。

妻・夏目鏡子宛てでは、ロンドンでの生活や家庭に関する漢語を多く採録した。門下生・鈴木三重吉、森田草平宛てでは、文学、学問、文学に関する漢語を多く採録した。

難易度に関しては、文学に関心の強い正岡子規、鈴木三重吉、森田草平宛てに対してのみ漢文に使用するような漢語を用いるのではなく、家族である夏目鏡子宛てでも漢文の一節を引用している例が少しではあるがみられた。漢語の字数に関しても、夏目鏡子宛てで一字漢語から六字漢語まで使用されていた。

また、漱石の書簡で使用されている漢語の多くが「分類語彙表

―増補改訂版―に記載されていたことから、特殊な表現は少なく、知識人である人物に対しても、難易度の高い漢語を使用しすぎないようにしていたのではないかと考える。

漱石は書簡を書く際に、伝えたい内容を確実に伝えることと相手を意識した書き分けを行っていたと考えられる。

注

注1

十川信介氏は「候文と言文一致の角逐」(『日本近代文学館資料叢書』第Ⅱ期) 文学者の手紙― 明治の文人たち 候文と言文一致体』博文館新社 二〇〇八年) において、

(中略) 明治の書簡文の正統は、江戸時代同様に候文である。それに対抗して、明治三十年前後から口語文・言文一致体も徐々に姿を見せはじめる。

と指摘している。このことから、本稿では、書簡の文体にさまざまな種類が表れたとされる明治三〇年代を調査対象とした。

注2

『漱石全集』第二二巻(岩波書店 一九九六年)

分析対象の明治三〇年代の書簡(括弧内の数字は書簡番号)

・正岡子規宛て書簡(13通)

明治三〇年(書簡番号一四、一一七、一一八、一一九、一二二、一二六、一二三、一二七)、明治三二年(一六九)、明治三三年(二〇九)、明治三四年(二二二、二二三、二二六)

・夏目鏡子宛て書簡(23通)

明治三三年(二〇〇、二〇二、二〇三、二〇四、二〇七)、明治三四年(二一四、二一五、二一八、二二〇、二二五、二三〇、二三一、二二三、二三四)、明治三五年(二三八、二四三、二四五、二四六、二四七、二四九、二五一、二五二)、明治三九年(六五一)

・鈴木三重吉宛ての書簡(20通)

明治三八年(四七二、四八二、四八四、四九一、五〇八、五一三)、明治三九年(五三二、五五八、五六一、五六九、五七五、五八二、五九一、五九五、六二七、六九四、六九五、七三一、七三五、七五一)

・森田草平宛ての書簡(28通)

明治三八年(五一二)、明治三九年(五一九、五二一、五三四、五三五、五三七、五五三、五五四、五七〇、五七八、五九七、五九八、六一六、六一九、六二二、六四四、六六〇、六六一、六七二、六七四、六七七、六八五、六八六、七〇一、七〇二、七一一、七二九、七三七)

注3 『新潮国語辞典 第二版』(新潮社 一九九五年)

注4 『分類語彙表―増補改訂版―』(国立国語研究所 二〇〇四年)

注5 『大修館 四字熟語辞典』(大修館書店 二〇〇四年)

注6 『漱石全集』第二二巻(岩波書店 一九九六年 五九二頁)

注7 『漱石全集』第二二巻(岩波書店 一九九六年 二五二頁)

(こばやし みおこ 二〇一三年日文卒)